

地域ケア推進会議の意見と今後の方策(入口支援)

入口支援	具体的な意見など	市の方針
(1)【行政・地域包括支援センター他】 繰り返し介護予防、自立支援について普及啓発を行う	■身近な相談窓口として、高齢者あんしん相談センター、はちまるサポートの認知度を高める。	■認知度を高めるためには、ただ発信だけでなく、「 届いて」「行動してもらえる 」ように発信する力をこれまで以上に高めていかなければならないと気づかせていただきました。 ■制度や窓口の認知度向上については上位計画である地域福祉計画の検討過程においても重要な位置づけとなっていますが、高齢者計画の中でも「 行政の発信力向上 」をロジックモデルに反映しました。 ■推進会議での意見を踏まえ、既存の手法に加え「 デジタルを活用した情報交流の促進 」、「 地域と連携した発信 」及び「 地域の情報受発信拠点づくり 」を強化していきます。
	■体力測定会で自分の体力や生活状況を知る、知ってもらう。 ■役に立つ情報交換や気づきの場となるイベントの開催。	■普及啓発に向けた様々なイベントについて、その後の意識・行動変化につながるような工夫やアウトカム評価を強化していきます。 【関連ロジックモデルC12、C17】
	【ケアマネジャー等介護事業より】 ■介護事業者は、自分のサービス事業以外のことにも視野を広げるよう意識を高める。	■地域の事業者による高齢者支援や健康づくりについて、ロジックモデルに追加して検討していきます。 【関連ロジックモデルC10】
	■地域包括支援センターの出張窓口を設ける。	■新たな窓口設置は当面難しいですが、地域の方が集まる様々な場やイベントへのかかわりを通じて接触の機会を増やすとともに、身近な場所で困りごと相談ができる体制を作るなど、「地域の情報受発信拠点づくり」について検討していきます。 【関連ロジックモデル C09】
	【児童・民生委員より】 ■民生委員の高齢者の実態調査結果から高齢者の生活を知ってほしい。	高齢者の生活実態を多くの市民、医療、介護、リハビリ等の専門職やに知ってもらうことで、介護予防や地域交流への関心を高めるきっかけづくりにつなげていきます。 【関連ロジックモデル C10】
(2)【地域他】 高齢者に情報が届くようお知らせ方法に配慮する。高齢者がSNSやPCに馴染めるようサポートする。	■SNSで情報収集する。スマホの有効活用をする。 ■SNS等を活用した情報発信。 ■高齢者がスマホやパソコンに馴染めるような講座企画。	■ てくボ事業 の中で、健康づくりにつながる情報を幅広く届ける方法がないか検討しています。 ■情報伝達の前提となるデジタルディバイド対策については、DX推進計画に基づき主にデジタル推進室が事業を実施しているほか、高齢者あんしん相談センターでもスマホ教室を開催しています。 ■「 行政から市民へ 」だけでなく「 市民から市民へ 」のサポートが行われる仕組みについても、今後検討が必要だと認識しています。 【関連ロジックモデル C12】
	■地域の中心人物が情報屋を見出し、そこから必要な情報や人脈につなぐ。 ■町会の掲示板や回覧板の活用（ポスター等で目につきやすく表示）。 ■町会の行事や集まりでも介護予防等の情報を積極的に発信する。地域祭りや行事でお知らせを配る。 ■知りたい情報がタイムリーに手に入る、参加したいイベントに参加できるよう情報が届く	■計画策定に向けて実施した調査からも、「 人と接する機会が減ると情報量が手に入らなくなる 」ということを示唆するデータがでており、地域と連携しながら「ロコミ」の活性化を図る必要を痛感しています。 ■身近で集まれる場を増やしていくとともに、そういった場に情報が集まりやすい状況を作るという、「地域の情報発信拠点づくり」についても検討していきます。 【関連ロジックモデル C09、C10】
	■子供会とのタイアップで地域交流を深めることで、地域の担い手を育てる。 ■家族や地域を含めたイベントを実施する。 ■昔の話をすると興味を持つ人が多い。 ■同年代の人同士の交流を増やす。	■いただいたご意見を踏まえて、プロモーション面での地域連携や地域団体の発信力向上支援など、「 行政×地域 」の総合力」を高める方策を検討します。 【関連ロジックモデル C12】
	■コンビニやスーパー、薬局でチラシを配る。 ■参加するとポイントがつくインセンティブのしくみづくり。 ■障害者雇用についてインセンティブをつくっていく。 ■家族や地域を含めた健康フェスタ等のイベント開催 ■参加したくなるような楽しいイベント開催。	
(3)【地域・行政・企業他】 多世代交流、まち全体で健康づくりや介護予防に取り組む機運づくり		
(4)【企業他】 民間活力、企業や学校と連携したイベントの開催や広報活動		
(5)【医療機関他】 医師、歯科医師、産業医、薬局などの協力によりフレイル予防を進めていく	■薬局の薬袋に健康に関わる情報チラシを入れて、情報提供の機会を拡充拡大する ■高齢者が多く来院する病院や薬局には、介護予防啓発ポスターや情報提供パンフレットを置く ■定期健診でのフレイル予防への具体的なアドバイス ■定期健診時に体力測定値等を数値化、記録化する ■医師や歯科医師のフレイルや介護予防に対する意識を高める ■フレイル予防について医師会の協力や企業の産業医の協力を得る ■産業医、企業医の協力により、生活習慣病予防や予防家族介護の相談から介護予防について情報提供や相談対応を行う。 ■医師からのフレイル状態への助言やリエイブルメント事業等への案内	■「再自立」や「介護予防」、「認知症との共生」など多くの重要な施策を実効性あるものにするためには、 高齢者との接点が多く、且つ高齢者から信頼される医師・歯科医師の皆さまの発信力が欠かせません 。 ■引き続き市の高齢者施策へのご理解・ご協力をお願いいたします。 ■意識の共有、及び高齢者向け発信の支援を目的とした周知媒体の作成など、市としてもできることがないか検討していきます。 ■地域包括支援センターで開催する地域ケア会議への医師、歯科医師、薬剤師への出席依頼を積極的に行い、医療と介護の連携の視点での地域の介護予防課題の検討を進めていきます。 【関連ロジックモデル C07、C13】